



陸上の生態系は土壌を基盤として成り立つため、1本の道路による分断の影響は大きい

高次消費者
(猛禽類や肉食性の哺乳類)

消費者
(動物たち)

生産者
(植物)

分解者
(土壌生物)



豊かな生態系が道路建設によって分断されると、生態系を支えることのできる自然の面積が著しく減少し、以前のような質の高い生態系を支えることは困難になります。



●道路による生態系の分断とロードキル

森の真ん中に道路を通すことの大きな問題点は、生態系が分断されることです。自然の規模が小さくなると、広い自然の土地を必要とするタカのような高次消費者や、それを支える多くの生きものも暮らせなくなります。

さらに、多くの道路が建設されるにつれ、野生の生きものの交通事故死（ロードキル）も増えています。平成8年の統計によると、タヌキの場合1万件を超えるロードキルが発生しています。

●アウトバーンの環境対策

ドイツでは、環境への悪影響を減らすために道路をつくらないことまで、真剣に考えています。つくられたあとの道路といえども、沿道に森を連ねたり、道路に蓋をするように人工地盤をつくり、表土をかぶせてピオトープを創出したり、生きものが通れるトンネルを設けるなど、環境への負担を軽減する取組が数多く見られます。

また、重要な自然環境のある場所に道路を通すことを回避したり、道路を造らざるを得ない場合でも、別の場所に自然を復元・創出するという代償措置も積極的にとられています。



カエルなどのためのトンネル 高速道路によって小動物の移動路が分断されたため、トンネルをつくって移動路を確保している。



アウトバーンの蓋かけによる緑地の造成 デュッセルドルフ市の写真の例ではアウトバーンに蓋掛けをし、上部に表土を客土することで約9haの緑地を復元し、自然の連続性を取り戻している。